

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	川崎市港湾振興会館	評価対象年度	平成29年度
事業者名	【事業者名】 公益社団法人 川崎港振興協会 代表者 齋藤 文夫 株式会社京急アドエンタープライズ 代表者 亀卦川 悟 【住所】 川崎市川崎区東扇島38-1	評価者	港湾管理課長
指定期間	平成26年4月1日～平成31年3月31日	所管課	港湾局川崎港管理センター港湾管理課

2. 事業実績

利用実績	会館利用者 407,108人 (前年度 345,544人) 展望室利用者 74,502人 (前年度 76,863人) 会議室・研修室利用件数 1,756件 (前年度 1,564件) 体育室専用利用件数 555件 (前年度 484件) 体育室個人利用者 2,118人 (前年度 2,676人) テニスコート利用者 31,542人 (前年度 30,494人) テニスコート利用時間 13,572時間 (前年度 14,816時間) ビーチバレー場利用者 30,332人 (前年度 37,047人) ビーチバレー場利用時間 7,461時間 (前年度 7,660時間)
収支実績	収入額 214,020,008円 (前年度216,014,516円) 【内訳】 指定管理事業収入 142,765,000円 (前年度143,144,000円) 会館事業収入 71,255,008円 (前年度 72,870,516円) 支出額 199,279,094円 (前年度202,699,250円) 【内訳】 人件費 40,188,038円 (前年度 39,526,116円) 物件費 159,091,056円 (前年度163,173,134円) 収支差額 14,740,914円
サービス向上の取組	<ul style="list-style-type: none"> 日本のトップレベル競技者用トレーニング施設であるナショナルトレーニングセンター（以下、「NTC」。）中核拠点（東京都北区）では対応できない競技についてトレーニング、強化活動を行うための拠点として、文科省より、ビーチバレーボールの「NTC競技別強化拠点施設」に認定された。 地域住民の交流や観光の振興を通じた地域の活性化に資する「みなと」を核としたまちづくりを促進するため取り組みが継続的に行われる施設として、国土交通省より「みなとオアシス」の一施設として登録された。 スポーツ教室（ビーチバレー、バドミントン、テニス、トレーニングなど）やボトルシップ教室を引き続き開催し好評を得ている。 環境に配慮した企業の事業（東芝が行う水素の実証実験、JXTGエネルギーの水素補充事業）に対する協力を継続実施した。

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
利用者満足度	利用者満足度	利用者満足度調査を適切に実施しているか	10	4	8
		利用者満足度は向上しているか			
		調査結果の分析を行い、満足度向上のための具体的な取組に反映しているか			
	事業成果	事業実施による成果の測定が適切に行われているか	10	3	6
		当初の事業目的を達成することができたか			
	(評価の理由)	<ul style="list-style-type: none"> 3月にビーチバレーボールの「NTC競技別強化拠点施設」に認定され、施設としての認知度が向上した。 川崎港を訪れる人々へのサービス向上やリピーターの増加などを目的とし、10月に「みなとオアシス」の代表施設として登録された。 ボトルシップ教室について、市内の小学校へ効果的に広報を行うことで、例年と比較し応募数が大幅に増加した。 スポーツ教室（ニュースポーツ）、スポーツ教室（ビーチバレー、テニス、バドミントン）などが引き続き好評である。 			

サービス向上及び業務改善	適切なサービスの提供	提供すべきサービスが仕様書や実施計画等に基づいて適切に提供されたか	10	3	6
		サービスの利用促進への具体的な取組が為されているか			
		利用者への情報提供を適時かつ十分に行っているか			
	業務改善によるサービスの向上	実施計画と実際のサービス提供に「ずれ」が生じている場合、原因究明に必要な取組が為されているか	10	4	8
		業務改善が必要な場合に、現状分析、課題把握、改善策の検討と実施が行われているか			
	利用者の意見・要望への対応	業務改善の取組によって具体的な効果があらわれたか	10	3	6
		利用者ニーズの把握に努め、それを事業や管理に反映させる取組が為されているか			
		意見・要望の収集方法は適切だったか（十分な意見・要望を集めることができたか）			
		利用者からの苦情や意見に対して、迅速かつ適切に対応しているか			
	<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> 委託業者との会議の場を設け意見等の共通認識を行い課題把握と改善策の実施を行った。 市との利用促進調整会議を開催し、施設の課題等について情報共有を行うとともに、改善策等について協議を行うことで、施設のサービスや利便性の向上に努めた。 入居者連絡会議を開催し入居者との意見交換や情報交換を行うとともに、入居者側の意見把握にも努めた。 平成28年度に利用率の低下がみられた会議室・研修室について、多用途での利用の検討や誘致活動を行い、利用件数等を向上させた。 				
収支計画・実績	効率的・効果的な支出	計画に基づく適正な支出が行われているか	5	3	3
		支出に見合う効果は得られているか			
		効率的な執行等、経費削減の具体的な取組は為されたか			
	収入の確保	計画通りの収入が得られているか	5	5	5
		収入増加のための具体的な取組が為されているか			
	適切な金銭管理・会計手続	収入と預かり金等を区別し、適切に管理を行っているか	5	3	3
		事業収支に関して適正な会計処理が為されているか			
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> 港湾事務室のエリアを見直し、拡張工事を実施することで港湾事務室使用料を増加（35,244千円⇒35,844千円）させた。 入居者への節電の啓発により経費削減を行った。 修繕費が7,200千円と限られている中で、支出の削減や収益からの充当分を修繕費に充てることにより、施設の維持補修に努めた。 					
組織管理体制	適正な人員配置	必要な人員（人数・有資格者等）が必要な場所に適切に配置されているか	5	4	4
	連絡・連携体制	定期または随時の会議等によって所管課との連絡・連携が十分に図られているか			
	再委託管理	再委託先との連携調整が適宜・適切に行われ、業務の履行についても適切な監視・確認が為されているか	3	3	1.8
	担当者のスキルアップ	業務知識や安全管理、法令遵守に関する研修が定期的に行われ、スタッフのスキルとして浸透しているか	5	3	3
	安全・安心への取組	事件・事故、犯罪、災害から利用者を守ることができる適切な安全管理体制となっているか（人員配置、マニュアル、訓練等）	5	3	3
		緊急時に警察や消防など関係機関と速やかに連携が図れるよう、連絡体制を構築し、定期的に情報交換等を行っているか			
	コンプライアンス	個人情報保護、その他の法令遵守のルール（規則・マニュアル等）と管理・監督体制が整備され、適切な運用が為されているか	5	3	3
	職員の労働条件・労働環境	スタッフが業務を適正に実施するための、適切な労働条件や労働環境が整備されているか	3	4	2.4
	環境に配慮した調達や業務実施が行われているか				
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> 全テナント参加の消防訓練を実施し、火災発生時などの速やかな避難、消火等への備えに取り組んだ。 指定管理者内による管理運営自己点検評価を行い、各委託業者との意見等の共通認識を行い利用者満足や成果に結びつける運営を行った。 市と毎月の報告会を設け、利用率の変動の要因分析や解決策の提案を行うなど、改善すべき内容について協議を行った。 環境に配慮した企業の事業（東芝が行う水素の実証実験、JXTGエネルギーの水素補充事業）に対して協力を継続した。 					

適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障をきたすことのないよう、施設・設備の保守点検や整備等を適切に実施しているか	14	4	11.2
	管理記録の整備・保管	業務日誌・点検記録・修繕履歴等が適切に整備・保管されているか。			
	清掃業務	施設内及び外構の清掃が適切に行われ、清潔な美観と快適に利用できる環境を維持しているか			
	警備業務	施設内及び敷地内の警備が適切に行われ、事件・事故・犯罪等の未然防止に役立っているか			
	外構・植栽管理	外構を適切に管理（草刈、剪定、害虫駆除等）しているか			
	備品管理	設備・備品の整備や整頓、利用者が使用する消耗品等の補充が適切に行われているか			
	(評価の理由) ・耐用年数が過ぎている設備が多い中で、不具合の発生に迅速に対応するとともに、日々のメンテナンスに努めたため大きな事故等は無かった。				

4. 総合評価

評価点合計	70.4	評価ランク	B
-------	------	-------	---

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

<p>平成29年度の指導事項となっていた会議室・研修室の利用件数及び利用人数について、ともに増加しているため、指摘に対して取組を行った成果と考えられる。</p> <p>体育室についても、専用利用の利用件数及び利用人数の減少が指摘されていたが、ともに増加している。他方、個人利用の人数は減少しているが、専用利用が増加したことにより個人利用のコマ数が減少したことが要因であると考えられる。施設としては、専用利用の件数が増加する方が収入が多く得られるため、引き続き専用利用の件数を増加させるよう取り組みを進めてほしい。</p> <p>また、平成4年の創設から年数が経過し、建物及び設備等が経年劣化し老朽化していく中で、不具合の発生に迅速に対応するとともに、日々のメンテナンスに努めたため、過年度に引き続き大きな事故等を発生させなかったことは評価に値する。</p>
--

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

<p>テニスコート、ビーチコートにおいて利用件数が減少しているが、平成29年度は悪天候により施設を利用できない日が多かったため、外的要因による影響であることが考えられる。しかしながら、外的要因により利用件数及び収入の減少が見込まれる中で、いかにそれを最小限に食い止めるかが指定管理者に求められるところであるため、天候に左右されない施設（体育室や会議室・研修室など）の利用件数をさらに増加させていく取り組みや、来館者を促進するためのイベントの実施、施設のより積極的なPRなどが求められる。</p> <p>また、今年度は「NTC競技別強化拠点」や「みなとオアシス」に指定されていることから、これらを活かした取り組みによる施設の更なる活性化についても期待する。</p>
